

かしの木広場

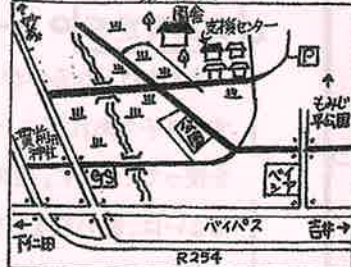
富岡市地域子育て支援拠点事業・子育て通信 2025年12月 NO 280

かしの木保育園
富岡市黒川 64
TEL63-4215
FAX67-1360

園庭開放

8:30~17:30(月~金)
名簿がありお母様の
ご来園の事務所に
お預け下さい。

＜案内図＞



お母様の為、園内見学希望の方
お電話下さい。
駐車場は子育て専用①を
ご利用下さい。道路わきの
路肩は駐車しないで下さい。

11/4(金)あそぼうの日の事です。この日はとても天気良く、お庭で遊ばれた。
色付いた落ち葉が庭一面に敷きつめられ、空は高く高く、今
この時にしかない光景でした。
歩けるのが嬉しくて、落ち葉の上をおちこち歩きおぼろ子。
集めたイチョウの葉と花束のよにしたりが嬉しくて、大事に持っている子。
落ち葉を集め、こぼれと落として、遊んでいる子。
落ち葉の上で腹這い、一生懸命葉っぱに手を伸ばして遊んでいる子。
そんな子どもの姿に、向き合っ、一緒に楽しんでいるお母さん達の
笑顔素敵でした。この光景、体験が子ども達の中に
残り重なる、いいのだなと思うと、嬉しくなります。

今、この時にしか出来ない遊びとおぼろ子で楽しませよう。

12月予定



園庭開放 (月~金) 8:30 ~ 17:30				
月	火	水	木	金
	ひよこ広場 9:30~12:30 0才~	たんぽぽ広場 9:30~12:30 1才前後~		たんぽぽ広場 9:30~12:30 1才前後~
1	12/4(金) あそぼうの日 お母様と一緒にお遊ばし おぼろ子、落ち葉、花束	12/5(土) あそぼうの日 おぼろ子、落ち葉、花束 おぼろ子、落ち葉、花束	4	5 羊毛を使って 雪だるま もみおぼろ子
8	9 手作りおもちゃ おぼろ子、落ち葉、花束 おぼろ子、落ち葉、花束	10(あそぼうの日) おぼろ子、落ち葉、花束 おぼろ子、落ち葉、花束	11	12 薪ストーブを焚いて 冬のお話をしよう
18	18/あそぼうの日 おぼろ子、落ち葉、花束 おぼろ子、落ち葉、花束	19(あそぼうの日) おぼろ子、落ち葉、花束 おぼろ子、落ち葉、花束	18	19 野菜を使って ケーキ作り クリスマス会
22	23 園庭開放	24 園庭開放	25 園庭開放	26 園庭開放

12/27(土)~1/4(日) まどお休みです。

※都合により変更する場合もあります。

予定していたお遊びが、雨の場合、室内遊びを楽しめます。
月令で曜日を決めています。どの月令でもセンターを利用して下さい。



12/5(金) 羊毛を使って 雪だるま・もみおぼろ子

(合同) (予約)



かしの木保育園には羊がいっぱい。毎年5月に
毛刈りをします。その毛も使って、雪だるまと
もみおぼろ子を作ります。ニードル針を使って。
刺していくと、ふわふわの毛が物になっていくのが楽しいよ。

12/9(土) 手作りおもちゃ 握りおもちゃを作ろう

赤ちゃんの発達に欠かせない握りおもちゃ。
センターにも置いてある羊毛を細長く
縫い、丸い玉をつけた握りおもちゃ。
ひろばに来た赤ちゃんもよく遊んでいます。
みんなでおしゃべりしながら楽しく
作ります。 材料代 200円

12/12(金) 薪ストーブを焚いて 冬のお話をしよう

かしの木広場の支援センターには
薪ストーブがあります。
最近では、火を焚く様子も
なかなか見られなくなっています。
薪ストーブを焚いても、やさしい
暖かさを感じられます。
薪ストーブのまわりで
冬のお話をしよう。



12/19(金) 野菜を使ってケーキ作り クリスマス会

(合同) (予約)

手作りホットケーキ(牛乳、卵を使っています)に
さつまいも、かぼちゃのクリームや、ブロッコリー、人参
果物を飾りつけて、一緒にケーキを作ります。
さつまいも、かぼちゃを使って、クリームを作るので、
離乳食の赤ちゃんもアレルギーの子も安心です。

ミニ演奏会の
お楽しみもあります。



12/3(土), 12/10(土), 12/17(土) 〈あそぼう〉の日

その日の天気や月令、月令の子ども達
見たい活動を決めます。その子に合わせた遊びと
たっぷり遊んでいきます。

ようたに合わせよう 赤ちゃん体操しよう

〈あそぼう〉の日に行います。
うたをうたいながら、お母さんの手で
赤ちゃんに触れていくマッサージュです。
マッサージュ触れ合う時間を通して、赤ちゃんが
安心します。マッサージュ後は、赤ちゃんの遊びや
赤ちゃん体操も楽しめよう。

マスクの着用につきましては、個々の判断にお任せ致します。
おぼろ子の消毒、衛生面に配慮致します。
お庭遊び、おぼろ子遊びや手洗いのついでに、おぼろ子遊びして下さい。
センターは12:30まで
終了させていただきます。

子ども大人も 絵本の世界を楽しもう

絵本は子どもの心を育てています。
お話を聞いて 嬉しかったり、驚いたりする
「ああ 良かった」「うれしかった」といって思いを
言葉に表し、心に残ります。
0〜5歳 素敵な 読む楽しみか

寒い季節になり 家の中で過ごす時間が
増えると思います。そんな時こそ
家族みんなで絵本を楽しみましょう



あかちゃんに絵本は必要？

「あかちゃんには、
〈意味〉よりも〈声〉が
大事なんじゃないかな」

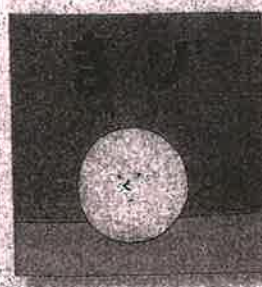
お話し 谷川俊太郎さん (詩人)

あかちゃんにとって「ことば」って？
「簡単に言う」とスキップだよ。
あかちゃんに絵本なんて必要なの？
っていう声ももちろんあるでしょう。
それは絵本が必要なんじゃないかと、
身近な年長者の声が必要なんですよ。
ね。声の調子で、怒っていたり、愛し
てることが伝わったり。活字に
はない感情の豊かさが声にはあるか
ら、あかちゃんや子どもに対しては、
意味よりも声が必要なんじゃないか
な。声は存在の温もりのようなもの
を伝えることができるんですよ。
たとえば、あかちゃんにとってほ
泣いたりわめいたりすることだって
一種のことばかもしれない。そこで
オノマトペがあるんですよ。こと
ばそのものに意味はないけれど、肉
体的な感覚があるから、ことばの意



たにかわ・しゅんたろう 詩人。
21歳のとき、詩集『二十億光年
の孤独』を刊行以来、子どもの
本、作詞、シナリオ、翻訳など
幅広く活躍。著書、作品多数。

味を知らない子たちにも訴えかけ
る力があると思う。そのために絵は
すぐ役立つ。ぼくが絵本に参
加したくなったのはそこですね。こ
とばでは言い切れないことが、絵が
加わることによって新しい世界にな
るっていうのがすごく魅力的だった。
ぼくは「意味のあることばが、意
味に束縛されずにある」っていうも
のを夢見ていて、そういうことがシ
チュエーションの中でふと成立する
ことがある。絵本は、そういうこと
を探るのがおもしろいんじゃない
かと思っています。あかちゃんは、
意味を理解することよりも、触った
りなめたりすることのほうが先で
しょ。その感覚に近いことばと絵が
あるといいな、っていうのがこのシ
リーズのテーマだよー



擬態語のリズムがたのしい

「ころん」「ころころ」「ぼーん」
「ぼんぼん」……爆で打たれて「ひ
ゅーん」と飛んだり、四角くなっ
たり。まじりと一緒に冒険しよう！



声に出すと気持ちいい

ごはんを食べてうんちをする。そ
んな「あーん」と「ぶーん」で毎
日を生きるあかちゃんの仕事を、
絵本にしました。

絵本で育まれるもの

絵本の道にふみくは絵本の道にふみく — たか へみさ 滝 董 一 刊

絵本を読むことは、子どもと大人の両方にとって、その時間そのものが喜びの時間ですが、それでは、
今このときに絵本から得られたよこびが、子どもたちの未来にむけていったいどんな力となっていくの
でしょうか。ここで、その可能性について考えてみたいと思います。

自己肯定感

まずあげられるのが、子どもたちの自己肯定感が育まれることです。絵本には必ず読み手が必要で
す。親子であれば、いつも忙しいお母さん、お父さんが、絵本を読む時だけは、自分のためだけに時間
を使ってくれます。絵本を読むことは、テレビを見ながら、お皿を洗いながらはできません。ひざの上で、
あるいは、添い寝をしながら、よりそって聞くお話の世界は、それだけで子どもたちにとって大きな喜び
であるに違いありません。そのお話が素敵な内容であればなおのこと、お話の楽しさを大好きなお母さ
ん、お父さんと一緒に共有するひとときは充実して満ち足りた時間となるでしょう。1日の中のほんの1
0分ほどのことですが、毎日このような時間を積み重ねることで、子どもたちは、自分が大切にされてい
ること、愛されていることが実感でき、しっかりと自己肯定感を持つことができるでしょう。これが、生きる
力の基礎となり、基本的信頼感や安定根をより確かなものにしていきます。特に、年の近い兄弟姉妹
の上の子にとって、妹弟が眠ってから、お母さんお父さんを独り占めにできて、たっぷり甘えることがで
きる絵本の時間はかけがえのないひとときとなるでしょう。愛情を言葉や態度でしっかりと示すことは大
切です。そのようないいねい関わりにより、子どもはより安心し、気持ちが落ち着くのだと思います。そ
うすることで、兄弟姉妹もお互いに深い思いやりを持つことができるでしょう。

豊かな感情

さらに、絵本を通して、読み手と聞き手がともにその体験を共有することで、豊かな感情が育まれる
ということも絵本の大切な役割です。子どもたちにとって、絵本を楽しむということは、主人公に同化し
てその絵本の世界を体験することです。これは、未知の世界への冒険を意味することですから、幼い
子ども1人ではとても心ほそいことでしょう。しかし、絵本には読み手である大人が常にそこにいっしょに
います。大人に見守られていることを確信しながら、安心して子どもたちは絵本の世界を存分に楽し
むことができるのです。1冊の絵本の物語が終わったとき、その物語で体験した、ワクワクしたこと、驚
いたこと、喜んだことの全てが、読み手と聞き手が共有する感動となります。

今、子どもたちの心の育ちが危ういと言われています。人の痛みがわからない、思いやりのない、す
ぐにキレル等という問題が指摘されています。しかし、喜びや悲しみの感情は、ひとりだけで育つものでは
ありません。それを共有する人がいてはじめて育まれるものです。「喜びは分かち合うと倍になり、悲し
みは半分になる」という言葉もあるように、ともに喜び、ともに悲しむことで、豊かなこころと、相手の気持
ちを察する思いやりが培われていくのです。子どもたちは、実生活においてももちろん、こころが動き、感
情が育まれますが、直接体験にはおのずと限界があります。絵本では実生活では体験でき得ないこと
も体験することができます。毎日、身近な大人と共に心躍らせながら、絵本の世界を体験することで、
感情はますます豊かに育まれます。